

<道路交通安全マネジメント（ISO 39001）>の運用の一部として

ヒヤリハットと論理的問題解決法「なぜなぜ分析」を用いた事故の未然防止策

### 【取組の狙い】

一般にヒヤリ・ハットは、結果として事故に至らなかったものであるため、見過ごされてしまうことが多い。すなわち「ああよかった」と、直ぐに忘れがちになってしまうものです。

しかし、重大な事故が発生した際には、その前に多くのヒヤリ・ハットが潜んでいる可能性があり、ヒヤリ・ハットの事例を集めることで重大な災害や事故を予防することができる。そこで、職場や作業現場などではあえて各個人が経験したヒヤリ・ハットの情報を提供し蓄積、共有することによって、重大な災害や事故の発生を未然に防止する活動が行われている。

ですが、なぜ？ヒヤリハットしたかという根本原因を発見し 未然に解決手段を講じていかなければ 間違った対策を立ててしまいヒヤリ・ハット活動の意味が薄れていくのではないかと疑問を感じた。

そこで、ヒヤリハット情報から根本原因を発見し 解決策を講じることによって 危険源を除去、低減させることが今回の取組の狙いです。

※今回は、原因の発見までの取組をご紹介します。

### 【具体的内容】

1. グループ計約80台（乗用車を含む）のドライバーにヒヤリハットの有無を日報にて情報を提供してもらおう。遅滞なく運行管理者或いは安全運転管理者と情報提供者が面談をし、根本的原因は何かを論理的思考（帰納法を採用）で発見する。

携帯電話、メール及び社内LANを通じ、1日以内に運行管理者或いは安全運転管理者から経営トップまで報告されます。

2. 情報、対策については報告書として保存し運行管理者等において必要に応じ再発防止策の追加や修正等の指示を行う。これらの情報はすべてデータベースとして社内LANに蓄積・公開し、全社的な情報共有が可能となっており、生きた事例として個々のドライバー教育に活用されています。

さらに、対策の有効性について、事故統計により検証しています。

**【取組の効果】**

1. 上記を含め事故防止対策の取り組み及び安全性向上を目的とした機器の導入などを通じて、各事業所において、有責の第1当事者となる交通事故が減少し全国貨物自動車運送適正化事業実施機関が実施する安全性優良事業所の認定を受けています。



2. 論理的思考においてヒヤリ・ハットした原因を追究してみても必ずしも真因であったかは定かではありません。しかし事故を撲滅したいといった方向性は職場の安全風土の形成や問題を解決しようとする過程において知識が蓄積されてきます。そのような見えざる資産の蓄積も長い年月を経て効果ができると考えております。

【参考】 なぜなぜ分析法

左折時に歩行者と接触しそうになりヒヤリ・ハットした。

【情報の概要】

ドライバーCは、左折するため青信号で交差点に進入したところ、電柱の影から飛び出してきた歩行者と接触しそうになりヒヤリ・ハットした。

【当時の状況】

- ・ヒヤリ発生時間：21時
- ・天候：雨
- ・ドライバーCは、配送先への到着時間に遅れそうだった。
- ・ドライバーCは新人で、この地域の地理になれておらず、地図を確認しながら運転していた。
- ・歩行者は、雨のため傘をさしていた。



